

TOSAギャラリー

夕刊をどう道場

逆立ちすると、たちまち軽くなってしまいう動物は？



となりの  
ニューヨーク  
木戸孝子

ピース・ユアセルフ



New York  
—Through The Pinhole  
(Grand Central Station)

慌ただしい師走の様子を見ていると、思い出さずにはいけないのが、同僚だったヒーターがしよっちゅう私に言ってくれた「Pace yourself(ペース・ユアセルフ)。自分のペースでね」という言葉です。急ぎの仕事が入って、私が焦った様子をしていくと、彼は必ず「Pace yourself」と声をかけてくれます。写真の修正の仕事は、細かい手作業なので、急いでも限界があります。急ぎだからといって、クオリティを落とす事は絶対にできません。しかも急いだために失敗でもしたら、プリントからやり直しになり、ものすごく余計に時間がかかってしまいます。「OK」と気持ち落ち着けて、いつものペースでやると、たいていは期限内に仕上がってしまいました。

たい事は一言も言えずに話が終わった、という事もしょっちゅうでしたが、落ち着いて、自分のペースで話してみると、会話がしやすくなりました。ニューヨークに行く前の私は、他人にどう合わせるか、という方を重要視していたかもしれませんが、事あることに、「Pace yourself」を、自分自身に言い聞かすうちに、この方法が自分に合っていて、とても効率的な事がたくさんわかってきました。毎日、多くの人が見え、多くの人が見え、早く過ぎて行くビジネスマン、誰かを待っている人、皆マイペースです。他の人が急いでいると、なんとなく皆が急がないといけなくなってきたり、日本の大きな駅とはだいぶ違います。いろんな人種が暮らすニューヨークの人々は、自分のペースを守る事が上手なのかもしれません。逆に言うと、いろんな人がいすぎて、合わせていると、きりがないからなのですが。そういえば、日本にも似たことわざがあります。「急いで事は損じる」。この言葉の意味を、ニューヨークで初めて理解したような気がします。

きと たかこ 1970年、中村市(現四万十市)生まれ。フリーランスフォトグラファーとして、ムック本シネマキッチンなどの仕事を続け、2002年渡米。ニューヨークのインタナショナル センター オブ フォトグラフィで学ぶ。

高知新聞(夕刊) 2008年12月25日

## となりのニューヨーク ―ペース・ユアセルフ―

慌ただしい師走の様子を見ていると、思い出さずにはいられないのが、同僚だったピーターがしょっちゅう私に言ってくれた、「Pace Yourself」(ペース・ユアセルフ。自分のペースでね。)という言葉です。

急ぎの仕事が入って、私が焦った様子をしていると、彼は必ず「Pace Yourself」と一声かけてくれます。写真の修正の仕事は、細かい手作業なので、急いでも限界があります。急ぎだからといって、クオリティーを落とす事は絶対にできません。

しかも急いだために失敗でもしたら、プリントからやり直しになり、ものすごく余計に時間がかかってしまいます。「OK」と気持ちを落ち着けて、いつものペースでやると、たいていは期限内に仕上がってしまいました。

早口でしゃべる事で有名なニューヨーカー。最初のころは、相手のペースにつられ、自分の言いたい事は一言も言えずに話が終わった、という事もしょっちゅうでしたが、落ち着いて、自分のペースで話してみると、会話がしやすくなってきました。

ニューヨークに行く前の私は、他人にどう合わせていくのか、という方を重要視していたかもしれません。事あるごとに、「Pace Yourself」を、自分自身に言い聞かすうちに、この方法が自分に合っていて、とても効率的な事がだんだんわかってきました。

毎日、多くの人を使う、グランドセントラル駅では、クリスマスの時期になると、高い天井や壁を利用した大迫力のライトショーが始まります。子供たちは大喜び。立ち止まって見ている人、きょろきょろしながら歩いている観光客、足早に過ぎて行くビジネスマン、誰かを待っている人、皆マイペースです。

他の人が急いでいると、なんとなく皆が急がないといけなくなってしまう、日本の大きな駅とはだいぶ違います。いろんな人が暮らすニューヨークの人々は、自分のペースを守る事が上手なのかもしれません。逆に言うと、いろんな人がいすぎて、合わせていると、きりがいいからなのですが。

そういえば、日本にも似たことわざがあります。「急いては事をし損じる」。この言葉の意味を、ニューヨークで初めて理解したような気がします。